

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果報告 南越前町小・中学校の結果概要と対策

南越前町教育委員会

平成28年4月19日(火)に全国学力・学習状況調査を南越前町内の小学校6年生96名、中学校3年生94名を対象に行いました。今年度は国語と算数・数学の2教科での実施でした。調査結果については昨年までと同様、児童生徒の学習状況の改善に役立て、教育委員会や学校が保護者や地域の皆様と一体となって協力し合うことで、一層学習効果を高める目的で公表いたします。

1. 南越前町全小・中学校の学力調査の結果

平均正答率に関しては、昨年同様町内の小中学校ごとの結果を全国トップレベルの福井県及び全国と比較し、上下各2.5ポイント幅の範囲内を同程度、さらにそれを上回る範囲と下回る範囲とで表わすことで、学習状況等の各項目と比較して課題意識が持てるようにしています。

- (注1) 本町内の小中学校は小規模校が多く、平均正答率を用いて表わすと、その年度の数値が一人歩きしたり、経年変化を追うと学校の序列化につながったりするなど、学力調査の目的を逸脱してしまう恐れが大きいと考え、以下のとおり表しました。
- (注2) A問題とは、主に「知識」(身に付けておかなければいけない基礎的な知識・技能)、B問題とは「活用力」(知識や技能を実生活の中に活用する力)を問う問題のことで、
- (注3) 平均正答率とは、各児童生徒について全設問における正答数の割合を算出した値(個人の正答率)を足し合わせ、児童生徒の人数で割った値のことで、

◆小学校(4校)

教科	領域	本町の結果	
		県比較	全国比較
国語	A(知識)	同程度	上回る
	B(活用)	同程度	上回る
算数	A(知識)	同程度	上回る
	B(活用)	同程度	上回る

◆中学校(3校)

教科	領域	本町の結果	
		県比較	全国比較
国語	A(知識)	上回る	上回る
	B(活用)	上回る	上回る
数学	A(知識)	上回る	上回る
	B(活用)	上回る	上回る

*本県と全国の平均正答率より
+2.5ポイントを上回る(上回る)
-2.5~+2.5ポイント(同程度)
-2.5ポイントを下回る(下回る)


±2.5の幅の設定理由
例年、この調査の本町の小中学校における標準偏差をみると、2.0~3.0で推移しています。統計上、平均正答率からのばらつきが±標準偏差の間に約68問、±標準偏差×2の間には約95問の割合で分布することになります。このようなことから、本町では±2.5の幅を判断基準としています。

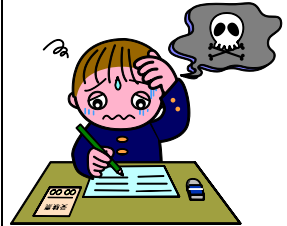
2. 学力調査結果の成果と課題

各教科の調査結果は、「成果」と「課題」に分類して特徴的な傾向を示し、伸ばす面や改善すべき面を具体的に把握できるものとして示しています。

また、学力調査の結果を判断する基準は、県の平均正答率から±2.5ポイントの幅とし、2.5ポイント程度上回っているものを「成果」とし、2.5ポイント程度下回っているものを「課題」としてその中の特に顕著なものを取り上げました。

◆小学校 国語

	成 果	課 題
A (知識)	<ul style="list-style-type: none"> ○学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く 〈例〉 たね をまく ○書き手の表現の仕方をより良くするために助言する ○登場人物の人物像について、複数の叙述を基にして捉える。 ○平仮名で表記されたものをローマ字を書く。 〈例〉 あさって 	<ul style="list-style-type: none"> ▼学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く 〈例〉 したいい 友人と出かける 〈例〉先生に そうですね する ▼目的や意図に応じて、収集した情報を関連付けながら話し合う ▼目的や意図に応じて、書く事柄を整理する。 ▼目的に応じて、図と表とを関連付けて読む。 ▼用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決める。 ▼平仮名で表記されたものをローマ字を書く。 〈例〉 りんご

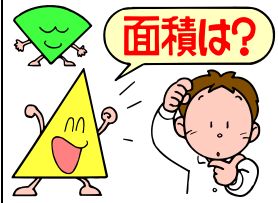
	成 果	課 題
B (活用)	<ul style="list-style-type: none"> ○話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する。 ○目的や意図に応じて、グラフを基に、自分の考えを書く。 ○目的や意図に応じて、表を基に、自分の考えを書く。 ○活動報告文において、課題を取り上げた効果を捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ▼グラフを基に、分かったことを的確に書く。 *他はどれも良い結果でした。 

◆小学校 算数

	成 果	課 題
A (知識)	<p>○除法における計算の確かめの方法を理解している。</p> <p>○繰り下がりのある減法の計算をすることができる。</p> <p>〈例〉$905-8$を計算する。</p> <p>○末尾の位のそろっていない小数の加法の計算をすることができる。</p> <p>〈例〉$4.65+0.3$を計算する</p> <p>○小数の除法の計算をすることができる。</p> <p>〈例〉$18\div0.9$を計算する</p> <p>○数の大小関係を理解している。</p> <p>〈例〉7.1, 7, 7.01の中で一番小さい数と一番大きい数を書く。</p> <p>○単位量あたりの大きさの求め方を理解している。</p> <p>○図形の構成要素に着目して、図形を構成することができる。</p> <p>〈例〉4枚の三角定規でつくることのできる形を選ぶ。</p> <p>○1を越える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を理解している。</p>	<p>▼除数が1より小さいとき、商が被除数より大きくなることを理解している。</p> <p>〈例〉$\square\div0.8$の商の大きさについて、正しいものを選ぶ。</p> <p>▼不等号を理解している</p> <p>〈例〉二つの数の大小関係を表す不等号を書く。</p> <p>▼三角形の底辺と高さの関係について理解している。</p> <p>〈例〉三角形の底辺に対する高さを選ぶ。</p> <p>▼示された場面を適切に読み取り、全体の人数を求める式に表すことができる。</p>



	成 果	課 題
B (活用)	<p>○ハードルの数とインターバルの数の関係を式に表し、4回目のハードルの位置を求めることができる。</p> <p>○示された式に数値を当てはめて、目標のタイムを求めることができる。</p> <p>○乗法や除法の式の意味を解釈することができる。</p> <p>〈例〉三つの式について、それぞれの式が何を計算しているかの説明文を選ぶ。</p> <p>○正方形に内接する円の半径について理解している。</p> <p>○示された事柄について、二つの表を基に読み取ることができる。</p> <p>○グラフから貸出冊数を読み取り、それを根拠に、示された事柄が正しくない理由を記述できる。</p>	<p>▼示された式の中の数値の意味を解釈し、それを記述できる。</p> <p>〈例〉目標のタイムを求める式の中の0.4や0.3が表す意味を書く。</p> <p>▼縦にかくことのできる正方形の数を求め、24個の正方形をかくことのできる理由を記述できる。</p> <p>〈例〉縦39cm, 横54cmの長方形厚紙から、1辺9cmの正方形を24個切り取ることのできるわけを書く。</p> <p>▼図形を構成する角の大きさを基に、四角形を並べてできる形を判断することができる。</p> <p>〈例〉示された四角形を並べてできる図形を選ぶ。</p>



◆小学校の結果について

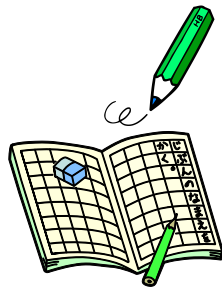
国語の結果分析から「目的に応じて、文章と図表などの資料を関係付けて読むこと」「用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを考えること」「学年別漢字配当表に示されている漢字を概ね正しく読むこと」については良好でしたが、「目的や意図に応じて、グラフや表を基に、分かったことや自分の考えを的確に書くこと」「話し手の意図を捉えながら聞くこと」「平仮名で表記されたものをローマ字で書いたり、ローマ字で表記されたものを正しく読んだりすること」に課題が見られました。

各学校においては、これまで培ってきた国語科としての教科指導を継承しつつ、他教科と連携して、時代の変化にも対応する指導の改善を目指すことが求められます。また、これまでの調査においても同じような成果と課題が見られることから、正誤だけでなく、一人一人の誤答の状況を詳しく見ることで、どこにつまずきの原因があるのかを分析し、調査対象学年だけでなく、学校全体で組織的・継続的な取り組みを行い、学習指導の改善・充実を図ることが必要です。

算数では、これまでの調査においても「計算の技能」や「示された図形の面積を求めること」などには成果が見られる一方、「計算の意味を理解すること」や「図形の性質をもとに考えること」「割合の意味を理解すること」などには課題が見られます。学習指導にあたっては、様々な式について、演算の意味や数値の意味について考える活動が重要になってきます。立式するだけでなく、友だちが考えた式について、その式の数値はどこから導き出されたものなのか、なぜそのような演算を行ったのかを考える場面を設定していくことが必要です。図形に関しては、操作活動や観察などの活動を通して図形の意味を理解したり、図に書き込むことで情報を整理して考えたりすることが大切です。割合に関しては継続的に課題となっており、基準量と比較量の関係について理解させる指導の工夫が求められます。割合の意味を理解させるための絵や図は、これまでにもいろいろな工夫がなされてきており、児童が自分に合った方法で考えていけるように支援ができるようにしていくことが大切だと思われます。今回課題となった百分率に関しては、基準量が100%であることや、100%を越える割合に関して視覚的に理解させる手だてが必要です。国語同様、正誤だけでなく、一人一人の誤答の状況を詳しく見ることで、どこにつまずきの原因があるのかを分析し、調査対象学年だけでなく、学校全体で組織的・継続的な取り組みを行い、学習指導の改善・充実を図ることが必要であると考えます。

◆中学校 国語

	成果	課題
A (知識)	<p>○文脈の中における語句の意味を理解する。 <例>「ライスカレーの名に値する」の意味として適切なものを選択する。</p> <p>○伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く。 <例>質問に対する答えが明確になるように適切な言葉を書く。</p> <p>○文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える。 <例>「不思議な機能」の説明として適切なものを選択する。</p> <p>○文章の構成や展開について自分の考えを持つ。 <例>文章について説明したものと、適切なものを選択する。</p> <p>○話の展開などに注意して聞き、自分の考えと比較する。 <例>相手の発言をどのように聞いているのかを説明したものと適切なものを選択する。</p> <p>○互いの発言を検討して自分の考えを広げる。 <例>話し合いを踏まえた発言として適切なものを選択する。</p>	<p>▼聞き手の立場を想定し、話の中心的な部分と付加的な部分との関係に注意して話す。 <例>聞き手をどのように想定して話しているのかを説明したものと適切なものを選択する。</p> <p>▼伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く。 <例>パンフレットの見出しを他の見出しの書き方を参考にし、書く。</p> <p>▼相手や場に応じた言葉遣いなどに気をつけて話す。 <例>電話を受けた相手のことを考えた言葉を書く。</p> <p>▼文脈に即して漢字を正しく書く。 <例>今までにないドクソウ的な考えだ。</p> <p>▼語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う。 <例>適切な語句を選択する。 仕事の合間を縫って、私に・</p>



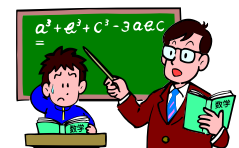
	成果	課題
B (活用)	<p>○文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、要旨を捉える。 <例>ちらしの表と裏から分かる「暮らしの中の伝統文化展」が開かれるねらいとして適切なものを選択する。</p> <p>○文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書く。 <例>ちらしの表と裏の表現の工夫とその効果を書く。</p> <p>○文章の展開に即して内容を理解する。 <例>物語の展開に沿って巳之助の様子を並べ替える。</p> <p>○本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く。 <例>図鑑の説明を読むことで、よく分かるようになった物語の部分と、その部分についてどのようなことが分かったのかを書く。</p>	<p>▼文の構成を考える。 <例>雑誌の記事の説明として適切なものを選択する。</p> <p>▼課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える。 <例>宇宙エレベーターについて疑問に思ったことと、それを調べるために必要な本の探し方を書く。</p> <p>▼目的に応じて必要な情報を読み取る。 <例>物語に書かれている事柄について図鑑の説明から分かることとして適切なものを選択する。</p>



◆中学校 数学

	成果	課題
A (知識)	<p>○具体的な場面で数量の関係を表す式を、等式の性質を用いて、目的に応じて変形できる。 <例>等式 $S = ah$ を h について解く。</p> <p>○具体的な場面における数量の関係を捉え、比例式を作ることができる。 <例>縦と横の長さの比が5:8の長方形の看板について、縦の長さが45cmのときの横の長さを求めるための比例式をつくる。</p> <p>○対称移動した図形をかきことができる。 <例>$\triangle ABC$ を直線 l を軸として対称移動した図形をかき。</p>	<p>▼垂線の作図の方法について理解している。 <例>与えられた方法で作図された直線について言えることを選ぶ。</p> <p>▼比例の式について、x の増加量に伴う y の増加量を求めることができる。 <例>比例 $y = 2x$ について、x の値が1から4まで増加したときの y の増加量を求める。</p> <p>▼測定値が与えられた場面において、近似値と誤差の意味を理解している。 <例>ある郵便物の重さについて、デジタルばかりで表示された値を基に、真の値の範囲を選ぶ。</p>

	成果	課題
B (活用)	<p>○グラフの傾きを事象に即して解釈することができる。 <例>B車の使用年数と総費用の関係を表すグラフについて、グラフの傾きが表すものを選ぶ。</p> <p>○筋道を立てて考え、説明することができる。 <例>2つの辺の長さが等しいことを、三角形の合同を利用して説明する。</p> <p>○付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することができる。 <例> $DA : DC = 1 : 2$ のときの $\triangle DEC$ がどのような三角形になるかを説明する。</p>	<p>▼加えるべき条件を判断し、それが適している理由を説明することができる。 <例> $x = 4$ のとき $y = 9$ になるように、x と y の関係を書き加えることについて、正しい記述を選び、その理由を説明する。</p> <p>▼与えられた式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明することができる。 <例>文字を使って手順通りに求めた数から最初に決めた数を当て方法の説明する。</p>



◆中学校の結果について

国語の結果分析からは、「相手や場に応じた言葉遣いをする事」「登場人物の言動の意味を考え、内容を理解すること」「伝統的な言語文化に関する知識・理解」については良好であったが、「文章を読んで興味を持ったことから課題を決めること、課題解決のために情報を収集する方法について適切に書くこと」「漢字や語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと」「書写に関する知識を適切に活用すること」に課題が見られました。今回の調査では特に「伝えたい事実や事柄について、根拠を明確にして適切に書くこと」、同音異義語やことわざ・慣用句などの「漢字や語句の意味の理解と適切な使用」などに課題が見られます。

数学では、これまでの調査においても「計算の技能」や「基本的な作図について理解すること」、「整数の性質を文字を用いて説明すること」などに成果が見られます。一方、「証明することの意味や必要性を理解すること」や「数学用語の意味を理解すること」、「論理的に説明すること」などに課題が見られます。数学用語の定義を正しく理解し、それらを用いて自分の考えを論理的に表現していくことは、中学校における数学の学習だけにとどまらず、高校以降の数学の根幹をなすものです。数学用語の意味理解指導において、例えば、感覚に基づく間違っただけの思い込みが生じているような場合には、的確な反例を提示することにより誤解を解いておくことが重要になります。説明することの指導においては、話型指導に終始するのではなく、記述された内容を重視し、身に付けた数学用語を正しく用いて論理的な説明をする経験を増やしていくことが今後の学力向上には必要不可欠であると考えます。

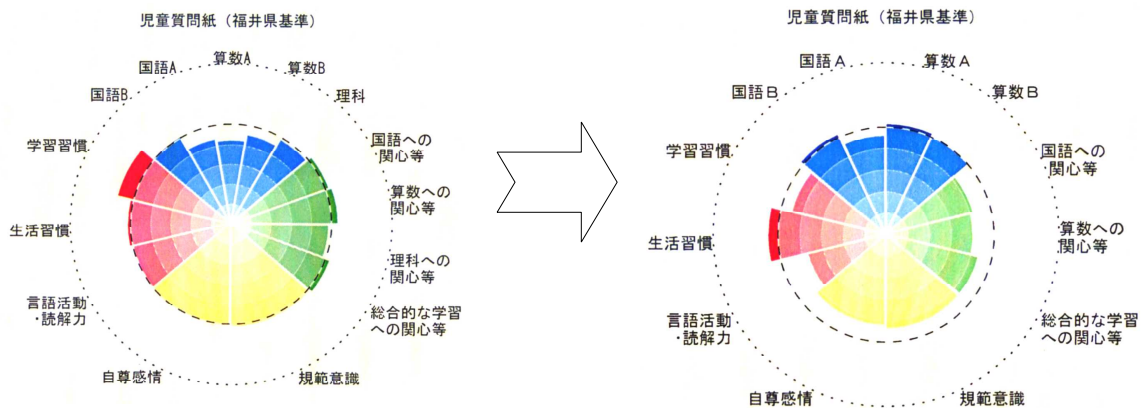
3. 学習状況調査結果

学習状況調査の結果は「良好な点」と「課題点」に分類し、児童生徒の自尊感情や生活習慣、規範意識、学習習慣などの項目を国や県の様子とも照らし合わせながら比較しました。分類の基準は、『2. 学力調査結果』と同様に県の平均とし、上回っている圏のものを「良好な点」、下回っている圏のものを「課題点」としました。ここで取り上げる「良好な点」と「課題点」は、本町内の全児童生徒の状況をまとめた次のようなチャート図に表されるように、児童生徒の特徴と言えるものです。今年度は昨年度のようにと比較できるように、グラフを並べて表示しました。

<資料1；南越前町内小学校>

【平成27年度】

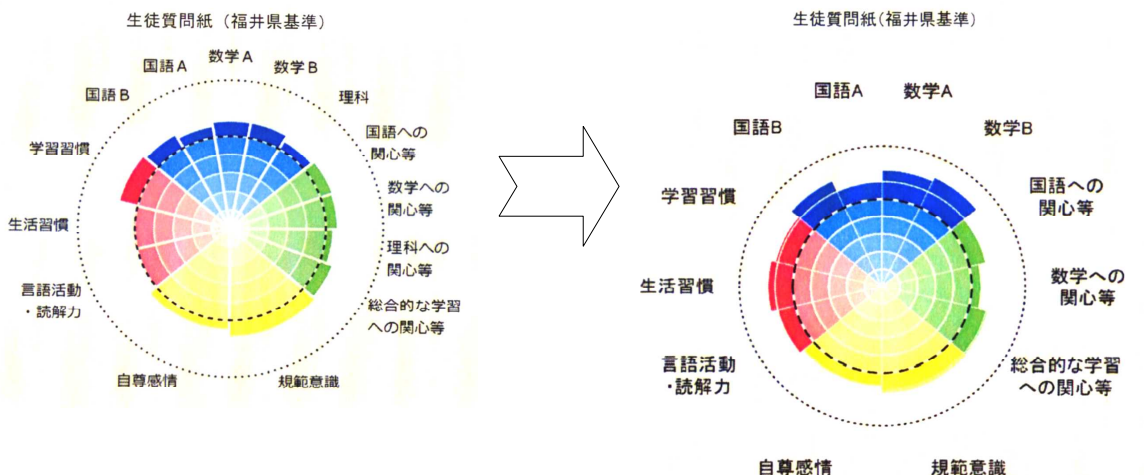
【平成28年度】



<資料2；南越前町内中学校>

【平成27年度】

【平成28年度】





(注)資料の外側の点線は、見やすさという観点で引いたものであり、何らかの基準を示すものではありません。

このチャート図の資料1をみると、町内の小学生は国語Bおよび算数で学力の定着がみられること、逆に、生活習慣では県と比べ若干下回る項目が多く、特に自尊感情や規範意識が県を下回っており、今後の指導によって改善すべき点であることがわかります。道徳の授業や総合的な学習の時間、特別活動、児童会活動、学校行事などのいろいろな場面で、子どもたちが達成感を感じられるような手立てを考へること、また、思い切って子どもたちに企画・運営を任せるような部分を増やしていくことが必要だと考えます。



資料2の中学校では、全ての教科において学力は定着しており、学習への関心の高さが感じられます。また、規範意識や自尊感情、各教科への関心も高く、意欲的に学校生活を送っていることが見て取れます。

このような特徴をみるために、学習状況調査は、学習習慣・生活習慣・言語活動(読解力)・自尊感情規範意識等の各項目の状況がわかるような質問になっています。その結果をもとに、南越前町の小中学校の児童生徒の「良好な点」と「課題点」を次の表のようにまとめました。

◆小学校

良好な点	課題点
<ul style="list-style-type: none"> ○毎日同じくらいの時間に寝て、同じくらいの時間に起きています ○今住んでいる地域の行事に参加している ○新聞を読んでいる ○「いじめ」は、どんな理由があってもいけないことだと思っています ○学校や地域などでボランティア活動に参加している ○友だちとの約束を守っている 	<ul style="list-style-type: none"> ▼自分には良いところがないと思っている ▼友だちの前で自分の考えや意見を発表することが苦手 ▼友だちと話し合うとき、友だちの話や意見を最後まで聞けない ▼家の手伝いをしていない ▼家で自分で計画を立てて勉強していない ▼人の役に立つ人間になりたいと思う子が少ない ▼400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文をかくことは難しい ▼話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできない 

◆中学校



良好な点	課題点
<ul style="list-style-type: none"> ○朝食を毎日食べている ○学校の授業以外に、1日あたり1時間以上勉強している ○学校が休みの日に、1日あたり2時間以上勉強している ○家の人と学校での出来事について話をする ○家で、自分で計画を立てて勉強している ○家で、学校の授業の復習をしている ○今住んでいる地域の行事に参加している ○地域社会などでボランティア活動に参加したことがある 	<ul style="list-style-type: none"> ▼難しいことに対し、失敗を恐れて挑戦できていない ▼友だちの前で自分の考えや意見を発表することが苦手 ▼読書の時間が短い ▼家で手伝いをすることが少ない ▼学校で、好きな授業があまりない 

これらの結果を、今後の学校生活で児童生徒のどの面に注目して指導改善してくべきかを検討する資料として生かしていきます。

4. 学力調査と学習状況調査の相関関係

学力調査と学習状況調査の結果から分かる相関関係については、小学校・中学校を問わず次のようなことが指摘できます。

〈「当てはまる」と答えた児童生徒と、「当てはまらない」と答えた児童生徒の平均正答率の差〉	
○朝食を毎日食べている	+16.0ポイント
○家で、自分で計画を立てて勉強している	+7.1ポイント
○学級会などの時間に友だち同士で話し合って学級の決まりなどを決めていく	+6.4ポイント
○今住んでいる地域の行事に参加している	+12.7ポイント
○新聞を読んでいる	+7.1ポイント
○学級の決まりを守っている	+22.9ポイント
○普段1日あたり2時間以上ゲームをしている	-11.5ポイント

◆3および4の結果から課題として改善を要すること◆

- 「朝食をしっかりと食べている子は、学力も高い」という傾向が見られます。食事はすべての源です。毎朝、しっかりと食事を摂って登校できるよう各ご家庭でもご協力をお願いします。
- 昨年同様、「文章を読む力、書く力がある子は、新聞を読んでいる」という傾向が見られます。新聞を読むことで、文章の構成や漢字の読みなど、内容の読み取りだけでなく国語の基本的な力の定着に役立っているようです。また、これらの力は、国語のみならず全ての教科の基本となり、総合的な学力のアップにもつながります。毎日でなくてもいいので、時間を作って新聞を読む習慣をつける必要があるようです。
- 今年度もどの学校においても「友だちの前で自分の考えや意見を発表することが苦手である」という傾向が見られました。これは以前から町内の小中学生に指摘される弱点の一つです。各学校での言語活動やコミュニケーション能力の向上に向けた取り組みを検証し、この弱点を克服できるような手立てについて、学校同士共通理解を図りながら進めていく必要があります。今後は、今まで以上にアクティブ・ラーニング(注)の手法を授業に効果的に取り入れていくことで、児童生徒に対しより自分を表現することに自信を持たせることで、他者と良い関わりが持てる子ども、さらに「学ぶ意欲」の高い子どもを育てていきたいと考えています。
- 特に中学校では「自分で計画を立てて勉強ができるかどうか」という点が、学力を伸ばすという面において大きな影響があるようです。これまでのように、学校の先生から与えられた課題ばかりでなく自分で自分の弱いところをしっかりと認識し、何をしたらその弱点を補強できるのか考えて勉強できる子どもを育てていく必要があります。学校と家庭がしっかりと連携を取って、「子どもたちだけで出来る事は、可能な限り子どもたちに任せる」という「勇気」を持つことが大人側に必要なのかも知れません。

(注)アクティブ・ラーニングとは・・・教員からの一方的な講義で知識を覚えるのではなく、生徒たちが主体的に参加し、仲間と深く考えながら課題を解決する力を養うことを目的とした教授法。そうした力を養う授業手法として、議論やグループワークなどが挙げられることが多い。

5. 今後の対策

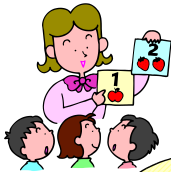
(1) 学校での取り組み

学校では、学力調査や学習状況調査の結果から見えてきた課題点を克服する授業、個に応じた授業や指導を学校教育の全般を通して行うことが大切です。このようなことから、各校の調査結果の「良好な点」を伸ばし、「課題点」を克服する指導を展開するために、次の点に力を入れていきます。

- ① 教科指導や総合・学活等で「児童生徒相互の学び合い」を意識した、児童生徒主体の授業を展開する。
- ② 朝学習、教科学習など、基礎・基本を徹底する時間を充実する。
- ③ 教育活動の場で、「新聞の活用(NIE)」を推進するなど、情報を活用する力を高める。
- ④ 家庭学習の内容など、個に応じた課題の学習を充実する。
- ⑤ 家庭や地域と連携した「道徳教育」を推進し、児童生徒の道徳性を高める。

それらを踏まえて各学校では昨年度に引き続き・・・

明るく豊かな人間性と健やかでたくましい身体を育むとともに、「基礎基本の定着を図り、確かな学力を育む」ことを目指していきます。



(*) 共生社会を目指して国が取り組む中で、学校教育での多様な教育的ニーズに呼応して、すべての子どもにとって分かりやすい授業を行うこと。

各校の指導・支援体制を充実し、ユニバーサルデザインの視点を生かし、どの子どもにも分かりやすい授業(*)を実施しています。

<展開の留意点>	<期待できる効果>
<p>(1) 学習の展開例</p> <ol style="list-style-type: none"> ① つかむ (学習の見通し) ② 追求する (課題の決定、自力解決) ③ 共有する (伝え合い、学び合い) ④ 振り返る (学習のまとめ) <p>※アクティブ・ラーニングの手法を取り入れたより「主体的・対話的で深い学び」が可能となる授業展開に力を入れていきます。</p> <p>(2) 指導に当たっての留意点</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 個に応じた指導と支援の展開 <ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインの視点から ・教師や支援員などの場に応じた支援や声かけの重視 	<p>☆「伝え合い、学び合い」の活動から、学習への意欲(主体性)、学習内容の定着が高まる。</p> <p>☆南越前町の児童生徒の課題を解決することにつながる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・言語活動が活発になる。 ・達成感や成就感により、自分に自信が付き「自尊感情」が高まる。 ・「授業内容」を理解できる児童生徒が増えることにつながる。 </div>

- ②見通し・振り返りの時間の設定
- ③言語活動の時間の設定
 - ・説明や解説、話し合いの時間
 - ・文章表現の時間
 - ・聞き取る時間
 - ・比較、考察する時間
- ④自己評価や個人評価の実施
- ⑤発展学習への展開
 - ・家庭学習への課題の提供

授業を進める上での学習形態や指導・支援

- ①習熟の程度に応じた学習を進める。
 - ・個々のレディネスを把握した学び場の設定
- ②多様な学習形態を活用する。(アクティブ ラーニングを取り入れる)
 - ・一斉・個別・グループ・ペアでの学習の工夫
- ③課題に応じた手段の活用。
 - ・体験的な学習活動
 - ・ICT機器の効果的な利用

(2) ご家庭にお願いしたいこと

家庭での課題が、「家庭での学習時間・読書の時間が少ない」「自分で計画を立てて勉強できていない」「お手伝いをしている子が少ない」等の状況であることから、学校と家庭が連携し、次のように家庭学習の充実を目指しましょう。

- ①規則正しい生活習慣を身につける
 - ・「早寝・早起き・朝ご飯」を習慣にし、テレビやゲーム、スマホはルールを守って使うようにする。
 - ・積極的に家事等に関わらせることで、「お手伝い」の意識を高める。
- ②家庭学習に、「調べ学習」「繰り返し学習」「読書」などの時間を設け、学習習慣が身につくようにする。
 - ・「調べ学習」とは；学校での学習課題や苦手な教科の予習などを、ノートなどに調べてまとめる学習のこと。
 - ・「繰り返し学習」とは；テストの間違い箇所や計算・漢字の反復などの学習のこと。
 - ・ここでの「読書」とは；読み物や調べ学習等の資料本を活用することによる読書のこと。
- ③家庭学習の時間は、自分で目標を決め、毎日継続的に一定時間を確保できるようにする。
 - ・個々の実情に応じ、「読書」や「新聞を読む」時間も盛り込みながら計画的に行う。



※積極的に各ご家庭で、関わり合いを持って下さい。

(3) 地域にお願いしたいこと

学習状況調査の結果からも指摘できる地域の中での課題が、「地域や社会に関心がない」「地域の大人との関わりが少ない」などがあるため、今一度のご理解とご協力をお願いします。

- ①普段から地区の子どもたちに「おはよう」、「気をつけて行ってらっしゃい」、「おかえり」、「それはあかんよ」などの気軽な声かけをしましょう。
- ②地区行事を子どもたちにとって魅力あるものにしましょう。
 - ・行事の中に役割があって、人から頼りにされたり、自分が役に立っているという自覚が持てるような行事になるよう、「子どもたちの居場所づくり」をお願いします。
 - ・集落子ども会の行事には、小学生のみならず中学生にも積極的に参加するように働きかけて下さい。
- ③ふるさとに愛着を持てるよう、地域の行事に参加し、ふるさとの良さや「地域の価値」を見つけられるように、行事の中で「楽しかった」「おいしかった」「感激した」など、地域の価値を見いだせる体験活動の企画などをよろしくお願いします。

